



丹生茂希さん

発想の転換、 ターニングポイント

「まず、土庄町の「ここはすごい」という「場の力」を共有しようと思う。丹生 土庄町の強みはコミュニティ内の距離感が近いことだろう。何かをしたいとき、すぐに聞ける関係にある。情報交換しやすい環境はとてもいい。とにかく、何をするにしてもやりやすい。高橋 シンプルに外から小豆島を見たときに、場の力だと思ったのは、海の真ん中にあるということだ。高速道路の入り口も出口もないところだと素通りされる。島には船に乗って来なければならぬ分、ワクワク感があるはず。そんな場所にあることが場の力じゃないか。

何をするにもやりやすい

丹生さん



石床渉さん

は全部そろっている。基本的に人が暮らせる環境が整っている。サービスが足りないところを補う仕組みも古くから出来上がっている。以前、高松市の郊外に住んでいたが、島より不便だった。土庄町は瀬戸内の離島の中では一番の都市。これは武器と考えるべきじゃないか。

「町の中心部、西光寺界わいの「迷路のまち」も今、若者に人気というが。鎌田 本町、洲崎エリアには町の中心機能が全部あった。かつては商業も盛んだった。50年ほど前から今に至るまでにターニングポイントがあった。大型店の進出で商業が衰え、人口が減って活力もなくなった。そんな中、土洲海峡が世界一狭い海峡としてギネスブックに認定されて観光地になり、エンジェルロードも恋人の聖地として注目を集め始めた。本町エリアを迷路のまちとして観光再生につなげたらどうかという提案を受けて取り組み始めた。瀬戸内国際芸術祭を契機に、まち歩きを楽しむ人が増え、東京などから移住してくる若者もいて、中には商売を始める人もいる。加えてインバウンド（訪日外国人客）も増え、ボランティアガイド協会をつくった。これからは国際化を視野に考えないと、小豆島の将来はない。

人の温かさが移住の契機

中島さん

「離島自体が場の力ということか。瀬戸内海全体から見たらどうか。石床 観光庁認定の地域づくりマネージャーをやっている。瀬戸内海には産業や文化、人の営みなど、既に素晴らしいものがたくさんある。後は小豆島や土庄町を含め、それぞれの良さを組み合わせ、どう発信していくかだろう。佐々木 若者が地域のために貢献してくれているのがうれしい。消防団員として地域の安全を守っているほか、若者で組織をつくって夏祭りなどを盛り上げていく。これらは明るく住みやすい地域づくりの大きな力だ。肥土山農村歌舞伎保存会でも多くの若者が頑張っている。いろいろな経験を積んで、さらに成長してほしい。

渡部 皆さんとは少し違つかもしれないが、土庄町も小豆島も都市だと思っている。物やサービスの少なさはある。ただ、学問、文化、産業、交流というもの

「彼らは何に引かれているの。中島 観光客が増え、移住にまでつながっている理由は人の温かさ。観光客の意見を聞くと、不便な島内で困り果てていると、島民が助けてくれるという。島では困っている人を見たら声を掛けるのが当たり前。このことにびっくりしているようだ。自然やアートが美しいことも大きい。人の温かさを理由に「豊島が良かった」と答える人は多い。

「若者が自慢できる場所は。」



中島道恵さん

参加者 (順不同)

- 鎌田 久司さん(71)＝迷路のまちボランティアガイド協会顧問
- 高橋 寿明さん(37)＝小豆島霊場54番札所・宝生院住職
- 丹生 茂希さん(35)＝小豆島青年会議所直前理事長
- 佐々木 育夫さん(67)＝肥土山農村歌舞伎保存会会長
- 笠井 信吾さん(65)＝屋形崎夕陽の丘継承会会長
- 石床 渉さん(49)＝香川せとうちアート観光圏地域づくりマネージャー
- 渡部 勝之さん(44)＝小豆島スポーツーツ事務局長
- 中島 道恵さん(37)＝豊島観光協会事務局長
- 木村 匡希さん(17)＝小豆島中央高校2年
- 芳地 風さん(16)＝小豆島中央高校1年